第 2 7 7 回

国有財産関東地方審議会議事録

令和 5 年 1 2 月 1 3 日

中央合同庁舎第 4 号館

4 階「共用第 2 特別会議室」

関 東 財 務 局

目 次

1. 開 会 -----	1
2. 委員紹介 -----	1
3. 会長互選 -----	4
4. 会長代理の指名 -----	5
5. 関東財務局長挨拶 -----	5
6. 諮問事項審議等 -----	6
諮問事項	
第1 諮問	
群馬県吾妻郡東吾妻町大字大柏木に所在する土地を吾妻環境施設組合に 対し、ごみ処理施設敷地として、並びに東吾妻町に対し、道路用地として 無償貸付け及び時価売払いすることについて -----	6
第2 諮問	
茨城県ひたちなか市新光町に所在する土地を茨城県に対し、工業団地造 成事業用地として時価売払いすることについて -----	1 8
報告事項	
1. 留保財産として選定しないことについて -----	2 2
2. 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷町外に所在する土地を、公益社団法人2 0 2 7年国際園芸博覧会協会と、博覧会会場用地として無償貸付契約 を締結したことについて -----	2 6
7. 閉 会 -----	2 7

午後 3 時 0 0 分開会

1 開 会

○中村管財第 1 部長

本日はご多忙のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまから第 277 回国有財産関東地方審議会を開会いたします。

当審議会の事務局を務めさせていただいております、関東財務局管財第 1 部長の中村と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日、委員改選後、初めての審議会であり、会長が選任されておりません。会長選任までの間、私が進行役を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

まず、開会にあたりまして委員の出席状況についてご報告いたします。本審議会は、国有財産法施行令第 6 条の 8 第 1 項の規定に基づき、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開き、議決することができないこととなっております。

本日は委員 12 名中 11 名の方のご出席をいただき、半数以上となっておりますので、本日の審議会は有効に成立しておりますことをご報告いたします。

2 委員紹介

○中村管財第 1 部長

次に、会長の互選に先立ちまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。お手元に「第 277 回国有財産関東地方審議会委員名簿」を配付させていただいておりますが、順にご紹介させていただきます。

まず、荒井祥子様でございます。

○荒井委員

よろしくお願ひいたします。

○中村管財第 1 部長

続きまして、井岡智子様でございます。

○井岡委員

井岡でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

入江彰昭様でございます。

○入江委員

入江です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

上條正仁様でございます。

○上條委員

上條正仁です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

金野美奈子様でございます。

○金野委員

金野でございます。よろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

齊木正人様でございます。

○齊木委員

齊木と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

澤野正明様でございます。

○澤野委員

澤野でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

湊元良明様でございます。

○湊元委員

湊元でございます。よろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

西尾京介様でございます。

○西尾委員

西尾でございます。よろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

長谷川秀行様でございます。

○長谷川委員

長谷川でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○中村管財第1部長

平田京子様でございます。

○平田委員

平田です。よろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

なお、藤倉まなみ様につきましては、本日所用のためご欠席されております。以上、ご紹介させていただきました12名が委員の皆様方でございます。

続きまして、事務局側の出席者をご紹介いたします。関東財務局長の伊野でございます。

○伊野関東財務局長

伊野でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

管財第2部長の瀬川でございます。

○瀬川管財第2部長

瀬川でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

管財第1部次長の金子でございます。

○金子管財第1部次長

金子でございます。よろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

管財第1部次長の小林でございます。

○小林管財第1部次長

小林でございます。よろしくお願ひいたします。

○中村管財第1部長

管財第2部次長の山本でございます。

○山本管財第2部次長

山本でございます。よろしくお願いいたします。

○中村管財第1部長

管財第2部次長の清水でございます。

○清水管財第2部次長

清水でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○中村管財第1部長

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 会長互選

○中村管財第1部長

それでは、会長の互選に入らせていただきます。

当審議会の会長につきましては、国有財産法施行令第6条の5第1項の規定により、委員の皆様方の互選により選出していただくこととなっております。

会長の互選に関し、どなたかご意見がございましたら、承りたいと存じます。

長谷川委員、よろしくお願いいたします。

○長谷川委員

上條委員に会長をお願いしたいと思います。

上條委員には、これまで会長として当審議会の運営を円滑に進めていただいております。今期も、引き続きお願いできればと思っております。

○中村管財第1部長

ありがとうございます。ただいま長谷川委員から、上條委員に会長をお願いしたいというご発言がございましたが、いかがでございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

○中村管財第1部長

それではご異議がないようでございますので、上條委員に会長をお願いしたいと思います。上條委員におかれましては、会長席にお移りいただきたいと存じます。

それでは、上條会長から一言ご挨拶を頂戴し、この後の議事進行は上條会長に進め

ていただきます。

それでは会長、よろしくお願いいたします。

○上條会長

では、改めまして上條です。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様方のご協力をいただきまして当審議会の円滑な運営、また活発な意見交換に努めて参りたいというふうに思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

4 会長代理の指名

○上條会長

それでは、まず初めに会長代理の指名を行いたいと思います。会長代理は、国有財産法施行令第6条の5第3項の規定により、会長があらかじめ指名することとなっておりますので、私の方から指名をさせていただきます。

会長代理は、井岡委員にお願いしたいと思います。井岡委員、よろしくお願いいたします。

○井岡委員

会長代理を務めさせていただきます井岡です。どうぞよろしくお願いいたします。

5 関東財務局長挨拶

○上條会長

それでは、本日の審議に入る前に、関東財務局長からご挨拶をいただきます。伊野局長よろしくお願いいたします。

○伊野関東財務局長

改めまして関東財務局長の伊野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日はご多用のところ、本審議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、このたびの委員改選におきまして、快く委員をお引き受けいただきまして、心から感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、ご審議の前に、最近の国有財産行政のトピックをご紹介しますと、9月20日に開催されました「財政制度等審議会第59回国有財産分科会」におきまして、

株式会社商工組合中央金庫の株式の処分にかかる答申がなされました。これを受け、政府が保有する同社の発行済株式の46.5%分について、当局に一般競争入札による売却の事務委任がなされましたので、できる限り速やかに売却できるよう、適切かつ円滑に事務を進めてまいりたいと考えております。

それでは、本日の諮問事項ですが、2件ございます。1件目は、群馬県吾妻郡東吾妻町に所在する土地を吾妻環境施設組合に対しごみ処理施設敷地として、東吾妻町に対し道路用地としてそれぞれ無償貸付け及び時価売払いをしようとするものです。2件目は、茨城県ひたちなか市に所在する土地を茨城県に対し工業団地造成事業用地として時価売払いをしようとするものでございます。また、このほか、ご報告させていただく事項が2件ございます。

委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○上條会長

ありがとうございました。

6 諮問事項審議等

○上條会長

それでは、関東財務局長から諮問のありました2件について審議に入りたいと思います。

第1 諮問

群馬県吾妻郡東吾妻町大字大柏木に所在する土地を吾妻環境施設組合に対し、ごみ処理施設敷地として、並びに東吾妻町に対し、道路用地として無償貸付け及び時価売払いすることについて

○上條会長

第1 諮問は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字大柏木に所在する土地を吾妻環境施設組合に対し、ごみ処理施設敷地として、並びに東吾妻町に対し、道路用地として無償貸付

け及び時価売払いすることについて審議いたします。

それでは、事務局から諮問事項の説明をお願いいたします。

○瀬川管財第2部長

管財第2部長の瀬川です。

それでは第1諮問についてご説明いたします。本件は、群馬県吾妻郡東吾妻町に所在する土地を吾妻環境施設組合に対し、ごみ処理施設敷地として、並びに東吾妻町に対し、道路用地として無償貸付け及び時価売払いすることについてご審議をお願いするものです。お手元の資料では、配付資料一覧5番目、スライドの第1諮問の資料をご覧ください。

2ページ、「財産の概要」をご覧ください。本財産は、群馬県吾妻郡東吾妻町に所在する約18万8千平方メートルの土地です。本財産は八ッ場ダム建設のための骨材プラントヤード及び工事用道路敷地として使用されていた財産で、現在は更地となっております。

本地は、国土交通省が平成19年から平成21年にかけて用地取得し、付近の山から切り出した原石を砕いて「骨材」と呼ばれるコンクリート材料の製造を行っていました。その後、令和2年3月に八ッ場ダム建設事業が完了したことに伴い用途廃止され、令和4年3月に国土交通省から当局に引き継がれました。本財産の利用について、当局は引受け前より、吾妻環境施設組合及び東吾妻町と活用に向けた検討を行ってきたところ、本年6月に両者から取得等の要望があったものです。

なお、吾妻環境施設組合は、後ほど詳細をご説明しますが、吾妻郡所在町村におけるごみ処理施設を集約、管理・運営するために設立された地方自治法上の一部事務組合です。

3ページをご覧ください。ご参考として、骨材プラントヤードとして稼働していた際の写真がこちらとなります。対象財産は赤線でお示しした部分です。写真の左上にあります原石山から大きな石を骨材プラントヤードまで運び、骨材プラントヤードでその石を砕いて、右上にあります写真のようにコンクリートに混ぜるための骨材を作り、その骨材を骨材運搬路のベルトコンベヤー等により、八ッ場ダム建設現場まで運び、セメントに混ぜて、ダム建設に使用されました。

4ページ、「位置図」をご覧ください。本財産は、群馬県北西部の吾妻郡の南東に所在する東吾妻町に位置します。

5 ページ、「案内図」をご覧ください。本財産は J R 吾妻線「川原湯温泉」駅の南東方約 2.4 キロメートルに所在しており、図の上部分中央にお示したハッ場ダムの南西に位置します。

6 ページ、「現況図」をご覧ください。赤枠で囲んだ箇所が本財産です。本財産は東西約 2.5 キロメートル、南北約 400 メートルの旗竿形の土地です。都市計画上は、都市計画区域外であり、用途地域の指定はございません。

7 ページ、「現況写真」をご覧ください。本財産の現況は、プラントヤードとして使用されていた西側に大きな平坦地と、骨材運搬路として使用されていた狭長な通路状の土地が東側へ延びる格好となっており、それぞれに斜面状の保護地部分があります。接道については、右下の写真③のとおり、赤枠でお示した、中央から奥に脇道のような格好で伸びている部分が本財産の接道部分であり、町道に約 8 メートル接しています。町道を介して県道 377 号線に接しており、周囲は山林に囲まれています。

8 ページをご覧ください。吾妻郡におけるごみ処理施設整備の必要性及び緊急性についてご説明します。

まず、ごみ処理施設の現状をご説明します。現在、吾妻郡では緑色の丸でお示した、既存ごみ処理施設が 3 つ稼働しておりますが、いずれも稼働開始から 30 年以上経過し、老朽化に伴う補修を続けながらの稼働を余儀なくされているところです。これら 3 つの老朽化した既存施設の更新が、吾妻郡における喫緊の課題となっております。

9 ページをご覧ください。吾妻郡において新たなごみ処理施設を整備する際に関連する計画についてご説明します。

まず、群馬県は、左上のハコにあります、「群馬県一般廃棄物処理広域化マスタープラン」において、調和のとれたごみ処理の広域化を推進しています。これを踏まえ、吾妻郡においては、その下のハコ、「吾妻郡一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」や、「吾妻郡一般廃棄物処理施設整備基本構想」に基づき、可燃ごみ処理施設とリサイクルセンターの一体的な整備、施設を通じた地域への貢献を基本方針としており、ごみ処理の広域化・ごみ処理施設の集約化を推進しようとするものです。

なお、右側のハコにありますとおり、環境省においては、ごみ処理施設の整備に関し、従来の廃棄物処理機能に加え、新しい価値を提供し、地域の魅力向上や課題解決に資することを促進しているところです。

これらの計画等を踏まえ、吾妻郡では、一番下のハコにありますとおり、老朽化した既存ごみ処理施設の更新に際し、ごみ処理の広域化とそれに伴う処理施設の集約化に加えて、多面的な価値の提供が求められています。

10 ページ、「計画の概要」をご覧ください。今般、吾妻郡に所在する町村において、老朽化した既存ごみ処理施設の更新に際して、ごみ処理施設の広域化とそれに伴う施設の集約化を図るとともに、多面的な価値を提供すべく本財産を活用することとし、当該事業を実施する主体として吾妻環境施設組合が設立されました。当該組合は、吾妻郡に所在する東吾妻町、高山村、中之条町、草津町、嬭恋村及び長野原町の6町村で構成される地方自治法上の一部事務組合であり、ごみ処理施設の設置、管理及び運営に関する事務を共同で処理することを予定しております。同組合は、3か所のごみ処理施設を集約し、本地にごみ焼却処理施設を整備するとともに、当該施設にリサイクルセンター、環境学習及び防災拠点としての機能を持たせる計画としています。

11 ページ、「利用計画図（イメージ）①（ごみ処理施設敷地）」をご覧ください。本財産のうち、右上の図にあります、ごみ処理施設敷地部分の利用計画についてご説明いたします。

ごみ処理施設の整備につきましては、今後設計を行うため、あくまでも現段階でのイメージになりますが、吾妻環境施設組合は、敷地中央にごみ焼却処理施設及び粗大ごみ処理施設、敷地西側にストックヤード、敷地東側に多目的広場の整備を計画しております。なお、図に「保護地」と表示している部分は上部や下部の土地を支える斜面となっています。本地に整備されるごみ焼却処理施設及び粗大ごみ処理施設の処理能力は、いずれの施設も吾妻郡において必要とされている水準を満たしております。

また、本施設では、ごみ処理施設としての本来機能のほか、付加的な機能として、管理棟において小学生等の環境学習を行うこととしています。また、敷地東側の多目的広場においては、災害発生時には、救援物資支援拠点としての防災活動やごみ処理場に隣接する立地を活かし災害廃棄物の仮置き場として活用し、平時にはごみ処理・環境問題に係る情報等の普及啓発を行う環境学習イベント等の開催が計画されております。

12 ページ、「利用計画図（イメージ）②（道路用地）」をご覧ください。道路用地部分の利用計画についてお示ししております。本財産は、ごみ処理施設に接続するための幅員約8メートルの道路を整備し、ごみ処理施設付近には、転回場や道路管理

地としての保護地も設ける計画です。

13 ページ、「事業スケジュール」をご覧ください。まず、上段のごみ処理施設のスケジュールについてご説明いたします。本地の国有財産法第22条の規定による無償貸付及び売払契約の締結は、令和6年3月を予定しております。

その後、令和6年度に生活環境影響調査を行った後、令和7年度から令和8年度にかけて公設民営での事業方式も視野に入れた業者の選定手続きを行い、令和9年度から令和12年度にかけて設計、工事及び県に設置の届出を行い、令和12年度下半期に供用を開始する予定です。なお、無償貸付部分については、供用開始後、国有財産法第28条の規定により譲与契約の締結を予定しています。

次に、下段の道路用地の整備スケジュールでございますが、令和6年3月までに路線の認定及び区域の決定、無償貸付及び売払契約の締結、令和11年度から令和12年度にかけ設計、発注及び工事を実施し、令和12年度下半期に供用を開始する予定です。無償貸付部分については、供用開始後、道路法の規定により譲与契約の締結を予定しています。

14 ページ、「処分条件等」をご覧ください。まず、上段の吾妻環境施設組合への処分等につきましてご説明いたします。ごみ処理施設敷地における処分条件は、国有財産法及び財務省通達に基づき、その用に供する面積の3分の2を無償貸付けし、残りを時価売払うこととなります。無償貸付部分については、供用開始後に譲与し、無償貸付期間中及び譲与に際しては、財務省通達に基づき用途指定を付すこととしています。

次に、下段の東吾妻町への処分等につきましてご説明いたします。道路用地における処分条件は、道路法及び財務省通達に基づき、その用に供する面積の3分の2を無償貸付けし、残りを時価売払うこととなります。無償貸付部分については、供用開始後に譲与することとなります。用途指定については、財務省通達により、道路法に基づく無償貸付または譲与の場合は要しないとされております。

また、契約方式につきましては、どちらの処分等も会計法の規定に基づき、随意契約によることとなります。

以上で説明を終わらせていただきます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○上條会長

ありがとうございました。ただいまの諮問事項につきまして、ご意見、ご質問等ご

ございましたらどうぞお願いいたします。

井岡委員どうぞ。

○井岡委員

原則的にはこの諮問について異議はございません。質問させていただきたいこと一つと意見がございますが、9ページのところに、調和のとれた、というところがあるんですけれども、多分この中には自然との調和ということも入っているのではないかと考えます。

消費者代表といたしましては、やはりごみというのはいろいろな課題がございますので、減らすとか分別とか、今またリチウムイオン電池なんかの問題も起きておりますので、一番望みたいことは、子供だけではなく大人も一般の見学などの開放ですね、それが環境学習へ繋がり、より深い理解をしていただけるのではないかと想着、その点をお願いしたいと思います。

広島に大変人気のある結婚式の事前の写真撮りまでできるようなごみ処理施設ができておりますが、そこまではいかないとしても、せつかく自然に恵まれた良い場所にあるので、ひとつの観光スポットとしても気軽に皆さんが見学できるようなところになるととてもよいと思います。それを望みたいと思います。

もう一つ質問ですが、この原石を取る山とかは、この後もう使われていないようですが、植林とか、何か自然に戻すようなことは、今後行われる予定はございますかという質問です。以上よろしくお願いいたします。

○瀬川管財第2部長

ご意見ご質問ありがとうございます。

一つ目の大人の方にも見学できるようにということですが、先ほど9ページのところでご説明したとおり、右側の環境省の指針におきましても、おっしゃるとおりごみ処理施設に新しい価値をつけるということで、今回組合の方でもそういった環境学習等の学びの場ということも想定しております。また、細かなカリキュラム等はこれから検討されると聞いておりますので、広島の事例等も、私は存じ上げなかったんですが、組合の方へもお話させていただきたいと思います。

また、原石山は、山を削ってしまして、今は土が露出してるような状態ですが、もともとここは国有林を国土交通省が所管換を受けまして石を取っていたんですが、現在、国土交通省において植林をしておりまして、定着した段階で農林水産省に戻して

国有林として維持していくということで今取り組んでいるところでございます。

○井岡委員

はい、ありがとうございます。よくわかりました。

○上條会長

よろしいでしょうか。他には。

湊元委員どうぞ。

○湊元委員

新しい吾妻クリーンセンターができると既存の3施設は順次廃止し1つに集約するという意味でしょうか。

○瀬川管財第2部長

ご質問ありがとうございます。おっしゃるとおり、県のマスタープランでも、国の施策でも、ごみについては今後人口減少ですとか、3Rですね、リデュース、リユース、リサイクルの推進でごみは減っていくということが見込まれておりますし、この地域においても、群馬県がプランを作るときに、試算しますと将来的にはごみも減るだろうと。老朽化しているというのもありますので、基本的には1つに集約して、元あった場所については建物を解体して廃止するというのが基本であろうと思われま

す。ただ、新施設稼働後の既存施設跡地の活用については、今後地元で検討されるものと聞いております。

○湊元委員

はい。わかりました。

それから、既存の3センターはできてから32年～33年経っています。今回新しくできる施設は、例えばごみ焼却するわけですからCO₂の排出があると思いますので、そこは大分効率が良くなって、環境負荷も低減するような、最新鋭のものができるとい

○瀬川管財第2部長

はい。この群馬県が広域化の計画を作る時にそういった環境への配慮とかも検討の中の一つとして入れてお

○湊元委員

はい、わかりました。

○上條会長

ありがとうございます。他に。

長谷川委員どうぞ。

○長谷川委員

一点確認させてください。この処理区分の部分で無償貸付と時価売払があって、無償貸付の方が3分の2だというご説明でしたけれども、この地図にある中で、どの部分が無償で、どの部分が時価売払か、ざっくりとした区分というか、イメージみたいなものはあるのでしょうか。

○瀬川管財第2部長

どこの部分を区分して無償貸付けするか時価売払いするかというのは、今後、相手方と調整していくのですが、通常であれば、無償貸付部分はいずれ返ってくることを想定して、例えば道路に接してないとかにならないような場所を切り出して、貸付けするというようなことを考えております。

○上條会長

よろしいでしょうか。他には。

西尾委員どうぞ。

○西尾委員

質問ですが、今回整備をするごみ焼却処理施設が、さらに30年後老朽化した場合にはどうするかということについて、地元ではどのようにお考えになっているかお聞きになってますか。

○瀬川管財第2部長

現在ある群馬県のマスタープラン等につきましては、群馬県の場合は9つのエリアに分けるんですが、それぞれの既存の施設を1つの施設に集約して30年ぐらい使うという計画のもとにプランが作られていると思いますが、その後のことについてはプランには特に書いてなかったと思いますので、今後検討の課題だと思っております。

○西尾委員

それではちょっと意見と感想のようなもので恐縮ですが、まず30年で老朽化というタームが、一般的な鉄筋コンクリートの耐用に比べると大分短いということを感じました。少し調べてみると、やはりごみ焼却施設はかなり寿命が短くて、10年、15年で適切なメンテナンスをしても、2、30年で寿命が来ると。そうだとすると、結構

先のことも考えて対応しておくことが必要かなと思います。例えば同じ土地の中で建て替えをすることが可能なのかとか、あるいはその場合に、一時的に先ほど廃止を言っていた3つの場所を暫定的に使う必要が出てこないのかとか。もう少し言うと、先ほどごみの処理の考え方とか、減量化が進んでいく一方で、場合によって技術が進んでいった場合に、ちょっと私が気になったのは、集約をするということは、全域から集めるまでに非常に輸送が長くなってしまうということと同時に意味するので、これは一方ではそんなに環境に良い話でもないなというふうに思っています。もしかすると、これ本当に感想みたいな話で恐縮ですが、より小規模分散型みたいな技術が出てこないのかみたいなことを考えると、ちょっと長い目線で、現在の敷地で使う設備と、今回整備するものと、将来のあり方というのを考えていただくと良いのではないかなと思いました。

それからもう一点、先ほどご質問があった、採石をした場所の話。基本的には植林して戻すということではないかなと思っているんですけども、八ツ場ダムの開発事業というのは、相当世間を賑わせたものでもあって、これだけの採石地ができてこういうものができるということそのものが、いい意味での環境学習の対象になるのかなと。そういう意味では、財務省に個別に戻ってくる分には、こうやって審議をして適切な利用を考えるしかないんですけども、できれば国土交通省が返す前の段階で、環境学習であるとか、そういったものを広く視野に置いて、一体的にここをどのように元に戻していくのか、別の利用の仕方をするのか、ということが考えられても良いと思いますし、その際、省庁連携みたいなことがあってもいいかなというふうに感じました。以上です。

○瀬川管財第2部長

貴重なご意見ありがとうございました。特に後段のご意見につきましては、環境学習の場というのは、西側の多目的広場で、子供たちが遊びながらというようなことを想定しているのですが、おっしゃるように、切り崩した山が自然に戻っていくという、そういった技術というか、事例もあるんだというのを見ていただくというのも非常に有効だと思いますので、関係者の方にはそのようなご意見があったということをお伝えさせていただきたいと思います。

○上條会長

他にはいかがですか。

平田委員どうぞ。

○平田委員

質問ではなくて意見なんです、井岡委員がおっしゃった、人が集まるごみ処理施設にする例が今、世界にもいくつか出てきていまして、広島の場合が出ましたけれども、徳島県の上勝町にはゼロ・ウェイストセンターというのができています。今、世界では、ごみ処理施設というみんなが嫌う施設に人を集めてくるというのがポイントで、ごみ処理施設プラススキー場というのが出ているんですよ。スキーで人を集めたりする、そういうこともあるんですけども、そういう中で、この土地はみんなが来るにはちょっとアクセスが悪いかなど。また道路も狭い。施設に入るまでに相当かかるんですけども、この上勝町のゼロ・ウェイストセンターは、ごみ処理施設がない町の人たちが自分たちでゴミ処理をして、ごみから建物を作って、それをホテルにしているという公共施設なんですけれども、泊まることができずし、環境学習できるんですよ。この土地の特徴から見ますと、観光で皆さんがたくさん来る土地ではないだろうということから、先ほどの井岡委員のご意見もあったと思うんですけども、みんなを集めるというのいろいろな意味があるので、新しいアイデアを群馬県の中で考えていただいて、人を集める機能として観光は無理かもしれないけど、何か別のものを。ゼロ・ウェイストセンターはものすごくデザインも綺麗なんですよ。建築デザインとしても賞を受けているところで、面白いのが廃材で窓とか作られていまして、廃材をデザインしてすごくお洒落にしているんですけども、そのような新たなアイデアをぜひ群馬県で生んでいただきたいので、お話されるときにお伝えいただけないでしょうか。以上です。

○瀬川管財第2部長

ありがとうございます。いただいた事例とご意見については、しっかり組合の方にお伝えしたいと思います。

○上條会長

他にはいかがでしょうか。

入江委員どうぞ。

○入江委員

先ほど委員の皆さんがおっしゃっていたことにさらにですね、9ページにありますように環境省の方では、大きな目標として多面的価値を創出する廃棄物処理を掲げて

ますので、単なるごみというふうに考えずに、やはり再利用とか利活用という視点で考えていくということが大切かなと思います。

嬭恋ですとか、東吾妻、長野原とか、この辺りはご存知のように、別荘が非常に多い地域であり、旅館とかホテルとか温泉街が非常に多いところでもあります。また、一大キャベツ畑のある農地が広がる嬭恋村でもありますので、いろんな利活用の仕方として、未利用バイオマスをどのように利用していくかというのも一つの課題だと思います。ごみを単なるごみと考えないで、それを例えば堆肥のような土を作っていく土づくりセンターと一緒に抱き合わせにするとか。あるいは、ここは別荘だとかそういった中でも今、樹木が大径木化してですね、それをどう利用するかということ、嬭恋、長野原の課題になっています。なので出てくるのはごみの中でもおそらく木材や、あるいは、それほど家庭的なごみが出るとは考えにくいので、そういった自然由来のごみというものをごみと捉えないで、それを資源と捉えて、堆肥を作るなり、あるいはそれを余熱利用して熱エネルギーとして活用して、温泉の温水として加温できるような湯を提供するとかですね、何かしらそういった地元にあった、ニーズに合ったごみ処理施設のあり方を検討されるように考えられたらよろしいのかなと思います。

○瀬川管財第2部長

貴重なご意見ありがとうございます。今のお話も組合の方に伝えさせていただきます。

○上條会長

他にはいかがでしょうか。

澤野委員どうぞ。

○澤野委員

ほかの委員の先生方に加えることはそんなにございません。私の考え方としましては、必要性・緊急性はどうなんだろうというような観点から見ていきますと、30年前に3つ一斉にできたような感じですね。それでいずれも老朽化したので、ここに集約しましょうと。こういうことで基本的には構わないわけですが、印象としては、西尾委員がおっしゃったように、30年しか使えないんだと。新しくできるのも30年しか使えないものができる、というようなご説明だったと思うんですが、それはいかがなものかなと。今の時代ですから、もっと長いスパンで新しい施設を使用していくという、あるいは建て替えを視野に入れて、もうすでに他の委員の先生がおっしゃっ

たことですが、これは非常に大事なことだと思います。ここに3施設を集約して大きな施設ができるから、ここに環境学習機能等を、他の目的を加味していくんだと。これはそのとおりで、この3つごみ処理施設があったものが、それぞれの地域の住民、あるいは観光の方たちからすると、その部分がなくなるということで、より良くなるわけですから、全体的な人口、あるいは観光等の産業に資するような形で、ここに集約するのだというような点もですね、ご説明に加えていただけるとより説得的かなと思います。現状のご説明でも私は問題ない計画かなというふうに印象を持ちました。以上です。

○上條会長

よろしいでしょうか。他には。

斉木委員どうぞ。

○斉木委員

11ページ、12ページのところに利用計画のイメージがありますけれども、こちらの道路用地の方については、かなり取り付けの部分が、延長が長いとはいえ、広大な敷地が道路用地というふうな形で、今のところ利用計画では位置付けられていますけれども、ここは道路用地以外では使えないような土地だというふうに考えておいてもよろしいでしょうか。

○瀬川管財第2部長

この土地は山の中にありますので、斜面等の支え地部分とか道路を維持するために必要な部分でありますし、行き止まりになってはいけなないので転回場ですとか、あと沈砂池というのがありますが、ここは山を切り崩して作った施設ですから、雨が降ると土砂がどうしても流れてしまって、そのまま下の川に流してはいけなないので、一旦その土砂を沈めて上積みをして川に流すような施設というのも含まれておりますので、今回お示したこの範囲というのは、道路の維持管理のために必要な施設だと思っております。

○上條会長

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは大変貴重なご意見もいただきましたので、関係組織の皆さんの方には、ぜひお伝えをいただきたいと思います。

ご意見が出尽くしたようですので、諮問どおり決定したいと思いますがよろしいで

しょうか。

(「異議なし」の声あり)

○上條会長

それでは諮問どおり決定いたします。

第2諮問

茨城県ひたちなか市新光町に所在する土地を茨城県に対し、工業団地造成事業用地として時価売払いすることについて

○上條会長

次に、第2諮問の審議に移りたいと思います。第2諮問は、茨城県ひたちなか市新光町に所在する土地を茨城県に対し、工業団地造成事業用地として時価売払いすることについて審議いたします。

それでは事務局から諮問事項の説明をお願いいたします。

○瀬川管財第2部長

それでは、第2諮問についてご説明いたします。資料は15ページからとなります。本件は、前回の審議会でも都市計画の決定をすることについてご了解いただきました、茨城県ひたちなか市の「水戸対地射爆撃場跡地」に所在する土地を、同県に対し、工業団地造成事業用地として時価売払いしようとするものです。

16ページ、「位置図」をご覧ください。対象財産は、近くに所在する自動車専用道路のインターチェンジを介して、北関東自動車道、常磐自動車道や東北自動車道へ直結しており、また、茨城港常陸那珂港区にも近く、利便性が高い立地となっています。

17ページ、「案内図」をご覧ください。対象財産は、茨城県ひたちなか市新光町に所在します。図に赤枠で①と表示してあります、103番1外1筆、13.1ヘクタールと、②と表示してあります、99番、23ヘクタールの2か所の未利用地です。なお、この図の緑色の太枠で囲みましたところが、射爆撃場跡地の範囲を示しています。対象地の南東側には、青色の枠で表示してあります、茨城県が整備した常陸那珂

工業団地が所在します。北東には、前回の審議会でご審議いただき、茨城県に工業団地拡張用地として売却予定の未利用地が所在します。

18ページをご覧ください。水戸対地射爆撃場跡地の活用状況です。対象財産は赤線でお示ししている部分です。対象財産を含め、本跡地の留保地については、茨城県、ひたちなか市及び東海村を構成員とした協議会から提出された利用計画に沿った処理を進めてきた結果、オレンジ色でお示しした未処理財産は、今回の対象財産を含め約128.4ヘクタールとなっております。なお、前回の審議会でご答申をいただいた売却予定の未利用地は、処理済として表示しております。

19ページ、「対象財産の現況図」をご覧ください。対象財産は、県による土地区画整理事業が完了しており、対象財産①については、東西方向に約337メートル、南北方向に約417メートルの整形な、概ね平坦な土地です。対象財産②については、東西方向に約524メートル、南北方向に約616メートルのやや不整形な、概ね平坦な土地です。都市計画については、本年10月の都市計画審議会において、工業専用地域に指定されており、建ぺい率60%、容積率200%となっております。両財産は北側に所在する自動車安全運転センターの周回路で囲まれており、この部分は接道していませんが、2つの対象財産の間を通る幅員約30メートルの市道により、それぞれ接道が確保されています。

20ページをご覧ください。こちらは対象財産の空中及び道路から撮影した写真です。右側の写真は、2つの対象財産を矢印の方向からそれぞれ撮影したもので、Aが対象財産①、Bが対象財産②の写真です。

こちらの写真は、自動車安全運転センターの周回路の上の陸橋から、2つの対象財産の間を通る市道を西から東へ向かって撮影したものです。幅員約30メートルの市道で、2つの対象財産はこの市道にそれぞれ接しております。

ここで、対象財産の状況について補足のご説明をします。スクリーンをご覧ください。対象財産②について、矢印の方向にビデオで撮影したものです。現況は雑木林となっており、対象財産は画面の奥まで続いております。

資料にお戻りください。22ページ、前回のご説明の繰り返しになりますが、ひたちなか地区における工業団地造成事業についてご説明します。

一番上のハコをご覧ください。留保地利用計画において、ひたちなか地区は産業集積を図る区域として、また、ひたちなか市都市計画マスタープランにおいて、企業誘

致等に対応するための新たな工業用地を確保する区域として位置付けられています。

2つ目のハコは、工業団地造成事業の根拠法をお示ししています。本件は、茨城県が対象地を取得し、都市計画に基づき、工業団地造成事業を実施するものです。

一番下のハコに事業の概要をお示しております。茨城県は、本地における事業を、前回ご審議いただいた第1期拡張地区造成事業に続く、第2期拡張地区造成事業として位置付けています。面積は、介在する調整池及び市道含み約38.3ヘクタール、事業費は約102億円、造成工事は令和6年度から開始し、令和8年度の完成を予定しております。右側は、造成後の利用区分を示しておりますが、詳細な計画は茨城県において今後決定することとなります。

23ページをご覧ください。対象財産を茨城県に売却することの必要性・緊急性についてご説明します。

一番上のハコをご覧ください。既に整備済みの常陸那珂工業団地は、大規模な企業の進出が相次ぎ、平成31年に完売している一方、企業から茨城県に対する産業用地の引き合いが続いています。

ひたちなか市においては、地元からの要請を受け、令和4年12月に茨城県に対し、当該対象財産を産業用地として開発することを求める要望書を提出しております。

また、茨城県は、産業用地のニーズの高まりを受け、ひたちなか地区に工業団地を追加で整備することとし、令和5年3月22日に行われた茨城県議会予算特別委員会において、複数の取得要望があるひたちなか地区で産業用地の開発を追加で行うことを表明しております。事業費に関しましては、茨城県において、本事業に係る測量及び設計費が、令和5年9月補正予算で措置済みとなっております。

なお、これまでの説明会等を通じて、近隣住民から工業団地造成事業に対する批判的な意見は出ていないと聞いております。

本要望を踏まえ、対象財産を工業団地造成事業用地として茨城県に売却することは、2番目のハコにありますとおり、高まる企業ニーズに合わせ迅速に産業用地を整備することで、地域経済の活性化や雇用の創出を実現しようとするものであり、その必要性が認められます。

緊急性につきましては、ひたちなか地区の既存の工業団地が完売している中、半導体関連企業などの複数企業から、現在計画している第1期拡張地区の面積を上回る引き合いがあります。機を逃さず企業のニーズに対応するためには、早期に用地を確保

して工業団地を開発する必要が認められます。

このように、当局といたしましては、茨城県に売払いすることについて必要性・緊急性が認められ、また、取得後の利用に向けて具体的な進展がみられるため、要望どおり売払いすることが適当と考えております。

24ページは今後のスケジュールをお示ししています。茨城県は、令和5年10月に対象地における工業団地造成事業の都市計画決定をしています。令和6年4月までに事業認可を取得した後、令和6年4月に国との売買契約の締結を予定しております。その後、同月から造成工事を行い、これと並行して令和6年度以降に公募手続き、事業者を決定の上、土地の引渡しを予定しております。

25ページ、「処分条件等」をご覧ください。処理対象財産は、対象財産①及び②を合わせて、土地約36.1ヘクタール、相手方「茨城県」、利用計画「工業団地造成事業用地」、処理区分「時価売払」です。財務省通達により、地方公共団体に対する時価売払いについては、用途指定は要しないとされております。契約方式については、会計法令に基づき随意契約によります。

以上で説明を終わらせていただきます。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○上條会長

ありがとうございました。それではただいまの諮問事項につきましてご意見、ご質問がございましたら、どうぞよろしく願います。

長谷川委員、どうぞ。

○長谷川委員

先日の審議会でもありましたこの第1期の拡張工事の部分と、今回の部分を合わせても多分まだ引き合いはもっとたくさんあるだろうと思いますけれども、その後、3期の拡張工事をどうするのかなどについて、進展や見通しなどが新たに出ているのでしょうか。

○瀬川管財第2部長

今のところ3期の工事についての具体的なご相談というのはまだ受けていませんが、もしそういうご相談があれば、私どもとしてもできるだけ丁寧に対応していきたいと考えております。

○上條会長

よろしいですか。他にはいかがでしょうか。

それでは前回も同様の案件がございまして、その段階でもかなり意見が出たと記憶しておりますが、今回意見も出尽くしたようですので、諮問どおり決定したいと思っておりますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○上條会長

それでは諮問どおり決定いたします。

以上、諮問事項2件につきましては、後程、関東財務局長に対し答申書をお渡しすることといたします。

続きまして、報告事項2件について、事務局からご説明をお願いします。

報告事項

1. 留保財産として選定しないことについて

○山本管財第2部次長

報告事項1件目につきましては、私、山本から説明させていただきます。よろしくお願いいいたします。

留保財産の選定基準において定めております、「地域・規模に関する要件」に該当するものの、個別的な要因を踏まえ、留保財産に選定しないこととした3物件につきましてご報告をさせていただきます。

そもそも、留保財産は、令和元年6月開催の財政制度等審議会国有財産分科会の答申を踏まえ、有用性が高く、希少な国有地につきましては、将来世代の新たな行政需要等に備えるため、国が所有権を留保しつつ、地域社会のニーズを踏まえ、定期借地権による貸付けで活用を図るものになっております。

27ページをご覧ください。こちらは、当局におけます留保財産の選定基準となります。この基準は、令和元年10月開催の当審議会の答申結果に基づきまして、決定しているところでございます。

他方で、この基準におけます「地域・規模に関する要件」に該当するものの、それぞれの財産の立地条件や財産価値等の個別的な要因を踏まえ、留保財産としないことに

した財産につきましては、当審議会に報告させていただくこととしております。

28ページをご覧ください。表示の3物件が今回の対象財産となります。それぞれの物件の概要と個別的要因につきまして、順に説明させていただきます。なお、3件いずれの財産につきましても、今回の決定に際しまして、あらかじめ国の利用や自治体の定期借地権による貸付けの要望がないことを確認しております。

29ページをご覧ください。物件1につきましては、埼玉県さいたま市見沼区大字丸ヶ崎に所在します財産で、JR東北本線「東大宮」駅の北東方約1.6キロメートルに位置します、相続税物納により引受けた面積2,497平方メートルの土地になります。本財産は、さいたま市の中心部でございます浦和駅、大宮駅から北方向の遠方に位置するとともに、周辺には空き地が数多く点在しておりまして、希少性に乏しく、将来取得の必要性が生じたとしても、代替地の取得に支障がない土地と判断したものでございます。

30ページをご覧ください。物件2につきましては、神奈川県横浜市中区箕沢に所在いたします財産で、JR根岸線「根岸」駅の北方約1.2キロメートルに位置します、国家公務員宿舎の跡地で面積は2,488平方メートルになります。本財産は、敷地内に法地が約900平方メートル存在することから有効宅地部分が少ない土地であることに加えまして、接道条件が悪く有用性に乏しいため、留保する必要がないと判断したものでございます。

31ページをご覧ください。物件3につきましては、神奈川県相模原市南区磯部に所在いたします財産で、JR相模線「下溝」駅の南方約0.6キロメートルに位置します、相続税物納により引受けた面積2,046平方メートルの土地になります。本財産は、相模原市の中心でございます相模原駅から南方に約6キロメートル離れており、また、西側に流れます一級河川の相模川の浸水想定区域に指定されていること、さらに、周辺には農地が多く存在していることから、希少性に乏しく、将来的に取得の必要性が生じましたとしても、代替地の取得に支障がない土地と判断したものでございます。

以上のとおり、3物件ともそれぞれの個別的要因により、特に留保する必要性は認められない土地と判断し、留保財産としないことといたしました。

以上をもちまして、ご報告とさせていただきます。

○上條会長

ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対しまして何かご質問等ございましたら、どうぞよろしく申し上げます。

澤野委員どうぞ。

○澤野委員

仕組みを教えてくださいたいのですが、留保財産にしないという判断は、局長が決めるあるいは合議体で、この審議会とは関係なく決めるということによろしいんですよね。また、留保財産としないと決めたら、今度それをどういうふう民間に売払うなり、地方自治体に利用してもらうなり、そういうことになっていくというふうな考えればよろしいんですか。

○山本管財第2部次長

ご質問ありがとうございます。先ほどご説明しましたこちらの選定基準でまず拾い上げます。その中で規模、位置、個別要因等から関東財務局内で留保の適否について個々に判断しまして、必要性が乏しいのではないかとすることを踏まえて、今回外させていただいた3件、こちらにつきましては、今後は公用公共用優先という観点から、地方自治体等にいわゆる公共的な随意契約が可能な用途の取得要望の受け付けをいたします。その結果特に何も要望がなければ一般的な未利用地と同様、一般競争入札という事で処理してまいります。

○上條会長

西尾委員どうぞ。

○西尾委員

意見になりますけれども、今ちょうど澤野委員がお尋ねになり、ご回答があったことに関連する部分で、留保財産としないとした後の、まさに地元行政に対して何か活用しませんかといった、その辺のコミュニケーションのあり方に関して、今後より丁寧に考えていただけると良いかなと思っています。前からこういう留保財産にしない件についてこの審議会でも幾つかあがっているんですけども、やはり地元の行政がどこまで広い視点でその土地の活用性を考えていけるかという部分に、事実としては結構限界もあって、例えば、地元行政に使えませんかと言うと、地元行政は関係部署に何か需要ありませんかと諮って、回答ありませんでしたのでありません、みたいな、そういう見方だとなかなか土地がもったいないことになるケースもあると思っていますね。

管財の行政の場合は、国有地を経済的に売却しながら国庫に入れてお金にして有効活用するという側面と、政策のまちづくりに活用することの側面と両方おありになると。留保財産にした場合はかなり一生懸命、地元行政に丹念に諮って、何かまちづくりに良い形でという協議をされながら検討していくんですけど、留保財産にならないとなると、途端にちょっとこう、どうなるかわからないみたいなのがあると思うんですよね。

今回の3件のうちでいくと、例えば横浜市の案件ですね。これ少し引いた目で見ると、周辺に根岸住宅という米軍から返還をされる予定の住宅があつて、ちょっと見てみると横浜市でも返還後の跡地利用に関してまちづくりを考えていると。これを見ると、返還後のまちづくりを考える場所と根岸森林公園をつなぐような場所に今回の案件の敷地があつて、より丁寧に見ると、そういうまちづくりを見ていく中でここを広場とか公園とか、緑のネットワークの一体として活用できればいいのになというところがあるんですけど、たまたまこれを照会をかけて、横浜市が行政需要なしと回答すると、もう永遠にその機会を失われるということがあつたりします。あと3番目の件は、浸水想定区域内に位置しています。災害対応は年々国の重要課題になってきていて、例えば浸水想定区域内にある土地と、安全な場所にあるんだけども民地の畑地であるというような場所。両方あるとして、例えば交換をすることによって、今後安全な場所に周辺住民を移転させる場所ができるかもしれないとか、ちょっと広げてみると、その敷地だけ見ると気づかないことがいろいろありそうなので、地元行政にどうですか、ありませんね、みたいなことだけではなくて、管財行政のもう一つの側面であるまちづくりにどう活用していくかという部分を、丁寧に紐解いてもいいかなと思います。その過程で場合によってここは一旦留保するかという観点があれば、この留保財産の要件に該当しなくても留保財産にする場合があるという条項を適用するということがあつてもいいのかなと思っています。以上です。

○瀬川管財第2部長

貴重なご意見ありがとうございました。確かにおっしゃるように、管財行政においては、地元にある国有地をどういうふうにもまちづくり等に活用していただくかということも、非常に重要な目的だと思っております。そのニーズを発掘するためには、やはり地方公共団体とよく普段から連携をして、そのいろいろな課題ですとか、そういったことを幅広く把握して、できればこちらから提案ができるような形になれば、

地方公共団体の方とももう少し深い協議ができるのではないかとということもあります。そういった観点でも私たちも地元のことをよく知って、地方公共団体と協議を重ねていくという取り組みを続けていきたいと思えます。

○西尾委員

ついでに申し上げますと、そういった場合に、例えば第三者の専門家などにこの土地というのはどう見えるか、というようなことの見解を聞いてみるという機会を作られても、国あるいは公共団体で気づけなかった視点から良いヒントがもらえる場合もあるのかなと思えますので、いろんな柔軟なやり方を考えられていいかなと思えました。以上です。

○上條会長

どうもありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

報告事項

2. 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷町外に所在する土地を、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会と、博覧会会場用地として無償貸付契約を締結したことについて

○上條会長

それでは2件目の報告事項に移りたいと思えます。説明をよろしくお願ひします。

○瀬川管財第2部長

2つ目の報告事項についてご説明いたします。横浜市瀬谷区外に所在する返還財産を国際園芸博覧会用地として無償貸付契約を締結したことについてご報告いたします。

33ページ、「位置図」をご覧ください。本財産は、赤枠でお示ししております、横浜市に所在する「上瀬谷通信施設跡地」です。本財産に関しましては、令和4年3月15日開催の本審議会において、土地区画整理事業の都市計画決定等についてご審議いただきましたが、「2027年横浜国際園芸博覧会」が本地において開催される運びとなりました。

34ページをご覧ください。左側の図が通信施設跡地の現在の状況です。民有地、国有地及び市有地がそれぞれ色分けされた位置に所在しております。

右側の図をご覧ください。横浜市が施行している土地区画整理事業の換地後の土地

利用計画をお示ししています。民有地は、土地所有者の意向を踏まえ、農業振興地区、観光・賑わい地区又は物流地区のいずれかに換地されます。国有地は、緑色でお示した位置にまとめて換地されます。現況道路である市有地は、道路等に換地されます。この図の桃色の線で囲った範囲が国際園芸博覧会の開催区域であり、国有地が太宗を占めます。

博覧会の開催にあたり、博覧会に関する特別措置法の規定に基づき、11月8日に当局と博覧会協会の間において、国有地の無償貸付契約を締結しました。本地の活用に関しては、当局横浜財務事務所、南関東防衛局及び横浜市の3者で緊密に連携してまいりました。

なお、博覧会終了後、国有地につきましては、横浜市が公園敷地等として整備することを予定しています。横浜市へ処分する段階になりましたら、改めて本審議会に諮問させていただきます。

35ページは国際園芸博覧会のパンフレットの抜粋でございます。

ご報告は以上です。

○上條会長

ありがとうございます。ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは以上をもちまして、本日予定された議題はすべて終了いたしました。

7 閉 会

○上條会長

関東財務局長からご発言がありましたらよろしく願いいたします。

○伊野関東財務局長

本日はご多用のところ、ご審議をいただきまして、また貴重な数々のご意見を頂戴しました。誠にありがとうございます。

ご審議の結果を踏まえまして、早速手続きを進めてまいりたいと思います。本日は誠にありがとうございます。

○上條会長

ありがとうございます。

それでは、最後に事務局から連絡事項がございます。

○中村管財第1部長

本日いただきました答申とその概要につきましては、関東財務局のホームページに掲載するとともに、記者クラブに投込みさせていただきます。これらについては、本日この後、事務局の方で対応させていただきます。

また、議事録につきましては、委員の皆様方のご確認をいただいた上で、公表させていただきます。

次回の審議会の開催につきましては、来年春頃を予定しております。具体的な日程につきましては、後日、事務局よりご連絡させていただきます。以上でございます。

○上條会長

それでは、これをもちまして散会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

午後4時13分閉会